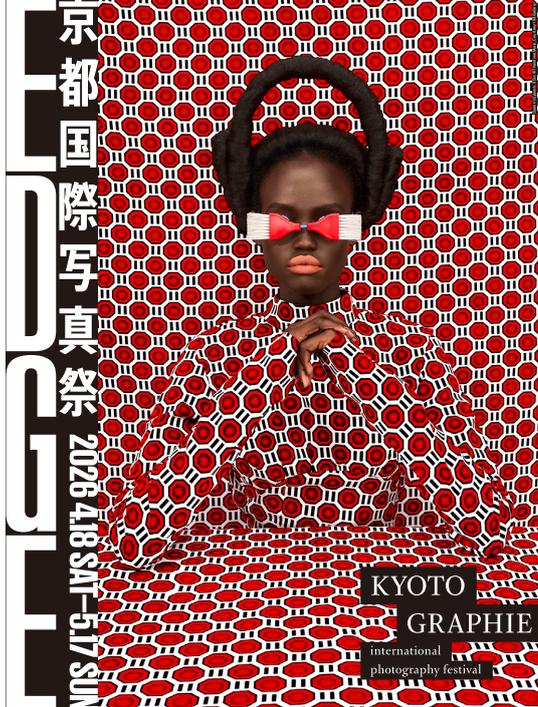


KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2026 4.18 SAT-5.17 SUN



The Queen's Speech, 2023 © Thandiwe Muriu, Courtesy 193 Gallery

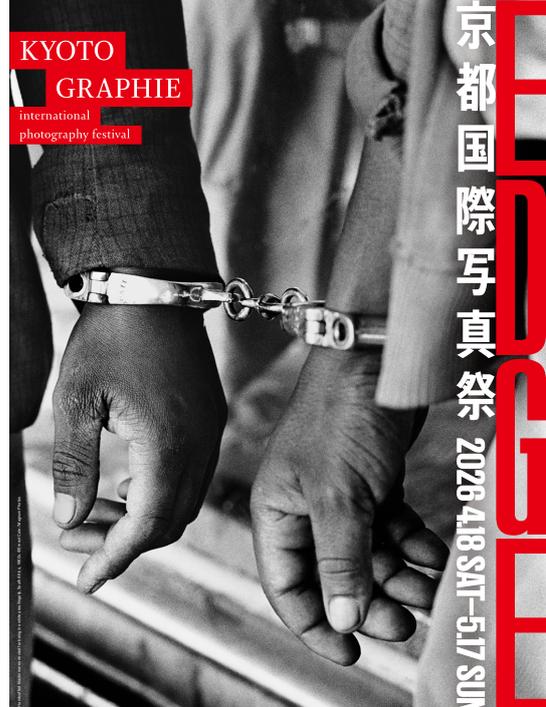


Photo: 手錠をかけた黒人。不法に白人専用地区にいたとして逮捕される。南アフリカ、1960年代 © Ernest Cole / Magnum Photos

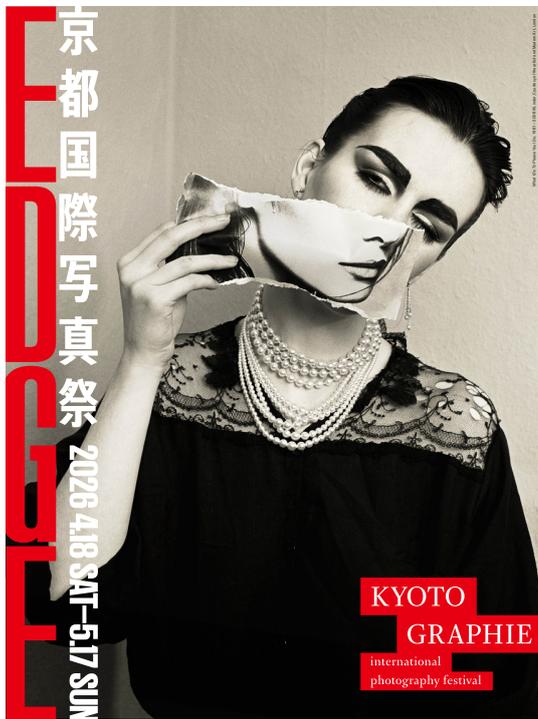


Photo: What I Do To Please You / Do, 1981-2008 © Linder, Courtesy of the artist and Modern Art, London

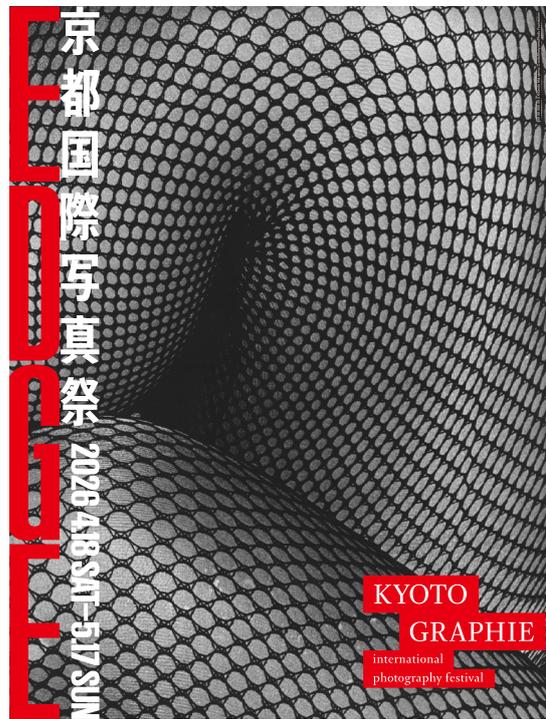


Photo: © Daigo Moriyama Photo Foundation

「South Africa In Focus」最新情報、市内全域で開催される 関連プログラム、会場の追加情報を発表

- ・ネルソン・マンデラの曾孫、シャブレラ・マンデラを招聘し、南アフリカの社会とアートに関するシンポジウムを開催
- ・マスタークラス、ポートフォリオレビューを今年も継続的に実施
- ・フォトブックフェアを今年からKYOTOGRAPHIEの公式プログラムとして開催
- ・歴史ある3つの建築を展示会場として新たに発表

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2026は、2026年4月18日から5月17日に京都の街全体を舞台としたフェスティバルとして開催されます。メインプログラムでは、新たに発表された3会場を含む12会場で14の展覧会を開催するほか、マスタークラスやポートフォリオレビュー、さらに会期中に実施される多彩なサテライトイベントも予定されています。前売チケットを2月20日よりオンラインにて発売し、3月初旬から順次、書店、カフェなど一部の店舗にて販売を開始します。

KYOTO
GRAPHIE
international
photography festival

南アフリカの歴史と写真表現の多様性を体現する 3世代のアーティストによる作品とフォトブック・コレクションを展示 ネルソン・マンデラの曾孫らが参加するシンポジウムも開催

今年のメインプログラムの重要なハイライトのひとつ「South Africa In Focus」では、レボハン・ハンイエ(展示: Presented by DIOR)、アーネスト・コール、ピーター・ヒュゴの3世代のアーティストの展覧会を開催します。各アーティストの個展では、南アフリカの視覚芸術の歴史や多様性を現在地からひもとくことで、その豊かな表現にふれることができる機会を創出します。また、ケープタウンを拠点とするA4 Arts Foundationとのコラボレーションにより、ショーン・オトゥールがキュレーションしたフォトブック・コレクションも展示します。多彩なプログラムとともに、来場者は南アフリカの文化的・歴史的・政治的背景への理解をより深めることができます。

また、より見地を広げるべく、関連イベントも開催します。南アフリカの黒人初の大統領となったネルソン・マンデラの曾孫であるシヤブレラ・マンデラを特別招聘し、上記の展示作家およびキュレーターとともにシンポジウムに登壇します。モデレーターは南アフリカのジャーナリストのジリアン・ウルフ。シンポジウムの後には、南アフリカのミュージシャンMsaki x Tubatsi(ムサキ×トゥバツィ)が、ボーダレス・ミュージックフェスティバル「KYOTOPHONIE」の一環としてパフォーマンスを行います。

シヤブレラ・マンデラ

平和・人権分野のリーダー、研究者、国際外交ストラテジスト。国際開発および紛争解決を専門とし、国際的に高く評価されている。テムブ王国ングベンチュカ王の子孫であり、MADIBA(マディバ/マンデラ元大統領の愛称)一族の名を受け継ぐ存在として、その多彩な歴史的・文化的バックグラウンドとともに、持続可能な平和を構築するための活動に邁進している。ネルソン・マンデラ大学にて国際関係学および紛争解決の博士号(PhD)を取得し、南アフリカ、イラク、アメリカにて学術職を歴任。NGO「Journalists for Human Rights」在籍時には、世界各地で平和構築の取組を主導した。現在は各国政府機関や国際機関にて、外交および国際開発分野のアドバイザーを務める。



South Africa In Focus シンポジウム

2026年4月19日(日)
会場: 東本願寺視聴覚ホール(新参拝接待所)
時間: 13:00 開場
13:30 開始 | 15:30 終了
料金: 無料 (KYOTOGRAPHIE Webサイトより要オンライン事前登録)
登壇予定: シヤブレラ・マンデラ、レボハン・ハンイエ、
ピーター・ヒュゴ、ショーン・オトゥール、ムサキ
モデレーター: ジリアン・ウルフ



Sophie on the winter solstice, Nature's Valley, 2020 © Pieter Hugo



Gladys, 2022 © Lebohang Kganye



Installation view (yitrine): Photo book/ Photo-book/ Photobook curated by Sean O'Toole, 11 February–21 May 2022. Image © A4 Arts Foundation



KYOTOPHONIE Borderless Music Festival MSAKI x TUBATSI Concert

2026年4月19日(日)
出演: Msaki x Tubatsi(ムサキ×トゥバツィ)
会場: 東本願寺視聴覚ホール(新参拝接待所)
時間: 16:30 開始 | 18:00 終了

料金: 一般 5,000円 | 学生 2,500円*
チケットはKYOTOPHONIE Webサイトで3月1日 10時AMより発売
*チケットをお持ちの方は、同日に東本願寺大玄関で開催される
メインプログラム14「レボハン・ハンイエ展」へ無料で入場可能。

マスタークラス、ポートフォリオレビュー、フォトブックフェアなど、体験型や参加型の多彩なプログラムも開催

KYOTOGRAPHIEは展覧会だけでなく、トークイベント、ワークショップ、参加型プログラムなどを開催し、会期中は京都の街全体が「写真の学びの場」となります。プロフェッショナルや学生はもちろん、子どもや家族連れ、写真にあまり詳しくないけれどイベントを体験してみたい人など、あらゆる人に楽しんでいただけるコンテンツが満載です。

KYOTOGRAPHIE フォトブックフェア

KYOTOGRAPHIEフォトブックフェアは、2026年より公式プログラムとして開催します。2026年5月9日(土)、10日(日)にロームシアター京都3階パークプラザにて実施され、フォトブックに特化した新たなプラットフォームとして、KYOTOGRAPHIEの中核プログラムに加わります。日本国内外から40以上の出版社、アーティスト、ブックメーカーなどが出店します。



マスタークラス・プログラム

マスタークラスのワークショップは、出展アーティストから直接写真について学ぶことができる貴重な機会です。本年は、福島あつし、フェデリコ・エストル、イヴ・マルシャン & ロマ・メップフェル、吉田亮人ほかによるマスタークラスを開催予定です。様々なレベルの方に参加いただくことができます。詳細は近日中にKYOTOGRAPHIEのWebサイトにて発表されます。



インターナショナル・ポートフォリオレビュー Supported by Fujifilm

毎年開催されるポートフォリオレビューでは、国内外の写真業界の第一人者たちが一堂に集結し、選考を通過した参加者と1対1のセッションを行い、個別のフィードバックを受け、ネットワーク作りの機会を創出します。参加者の中から、Fujifilm Award、Ruinart Japan Award、そして新設されるKYOTOGRAPHIE × Dazed Award受賞者が選出され、さらなる支援や発表の機会を得ることができます。



キッズプログラム

KYOTOGRAPHIEキッズプログラムは、フェスティバル期間中、さまざまな会場やプラットフォームで展開され、子どもたちとご家族にユニークな芸術体験の機会を提供します。作品や写真について学ぶことができる無料配布する冊子「キッズパスポート」をはじめ、ワークショップやツアーなど、学びの場やさまざまな体験を創出する多彩なプログラムを開催します。フェスティバル期間中、NTT西日本三条コラボレーションプラザにて、子どもたちのために特別に設計された展示も展開します。本年の新たな試みとして、KYOTOGRAPHIEメインプログラムから厳選された作品を、楽しく、わかりやすく学びながら紹介する展示プログラム「KODOMOGRAPHIE」を開催します。また、教育機関との提携プログラムの成果として、ファイナリストの写真を紹介する「キッズコンペティション展」も開催します。



KG+

KG+

KG+は、これからの活躍が期待される写真家やキュレーターの発掘・支援を目的に、KYOTOGRAPHIE京都国際写真祭のサテライトイベントとして2013年に始まった公募型フォトフェスティバルです。14回目を迎える本年は、京都市内約150会場で200以上の展覧会を開催し、300名を超えるアーティストが参加。街中の黄色い旗を目印に、多彩でエネルギーあふれる表現が地域と来訪者をつなぎ、新たな発見と交流を創出します。「KG+ DISCOVERY Award」は、KG+SELECTを除く参加展覧会から将来性ある作家1組を選出し、個展開催の機会と副賞を通じて、京都から新たな才能を世界へと送り出します。



©Takashi Hokoim=Windgraph

歴史ある3つの建築を展示会場として新たに発表

重信会館： イヴ・マルシャン & ロマ・メッツフェル

1930(昭和5)年に竣工。設立当初は、真宗大谷派(東本願寺)関係の財団の事務所として登録されたが、設立後まもなく大谷大学等の学生寮として運営され、2001年に閉寮。現在は建物全体が葦に覆われ、通常非公開で、近年は特別な催しの際のみ訪れることができる。KYOTOGRAPHIE 2026では、フランス人ユニットのイヴ・マルシャン&ロマ・メッツフェルが、近代の廃墟を写した大判作品に加え、初期の写真機材でバリを撮影した作品にAI技術を組み合わせたシリーズと、京都の街並みにAI技術を組み合わせた新作を発表する。



東本願寺 大玄関： レボハン・ハンイエ Presented by DIOR

東本願寺は、京都でもっとも大きな寺院の一つであり、年間を通じ多くの人が参拝に訪れる。大玄関は通常、公式行事の際にのみ使用される儀式的な入口である。今回大玄関にて開催されるレボハン・ハンイエの展示シリーズを展示し、日本で初となる大規模個展となる。通常は公開されていない壮麗な空間で作品を鑑賞できる貴重な機会となる。



有斐斎 弘道館： ジュリエット・アニュエル Presented by Van Cleef & Arpels

江戸中期の京都を代表する儒者・皆川淇園(みながわきえん/1734-1807)が1806年に創立した学問所の址に建つ歴史的建造物。数寄屋造りの歴史ある日本家屋と、苔が豊かな庭園から成る静謐とした空間では、茶事や講座など多岐にわたる催しが開催され、現代の学問・文化サロンとなっている。KYOTOGRAPHIE 2026では、精神性や自然をテーマとしたジュリエット・アニュエルの詩的かつ親密なインスタレーションを展示する。



フェスティバルスポンサー&パートナー

KYOTOGRAPHIE 2026は、以下の皆さまのご支援により開催しています。

Premium Sponsor

CHANEL
NEXUS HALL

Sponsors

Van Cleef & Arpels

SIGMA

Ruinart

FUJIFILM

LONGCHAMP
PARIS

Special Collaboration

THE RITZ-CARLTON
KYOTO

DIOR

agnès b.

三友堂

写真研究所

HEARST
Tajimaru

MCDcaux

NISSHA

ArchHotel
Kyoto

HCL

阪急

GLS

Further Information

プレスに関するお問い合わせ、インタビューのご依頼、その他詳細につきましては、KYOTOGRAPHIEプレス担当者までご連絡ください。

INFORMATION

KYOTOGRAPHIE 2026 京都国際写真祭

開催日程
2026年4月18日[土] - 5月17日[日]
プレス向け内覧会
2026年4月17日[金]
<https://www.kyotographie.jp/>

CONTACT

KYOTOGRAPHIE Office

〒604-0993
京都市中京区久遠院前町672番地1
Tel. 075 708 7108
Fax. 075 708 7126

PRESS

須田千尋 (CHIHIRO SUDA Inc.)
chihiro@chihirosuda.com

市川靖子
i@iroiroiroiro.jp

中村葵 (Kyoto PR)
aoi.nakamura@kyotographie.jp

2026 KYOTOGRAPHIE

ABOUT KYOTOGRAPHIE

京都国際写真祭とは？

世界屈指の文化芸術都市・京都を舞台に開催される、日本では数少ない国際的な写真祭です。国内外の気鋭の写真家による作品展示を中心として、子どもから大人、アマチュアからプロ写真家までを対象とするさまざまなイベントや教育プログラムも開催し、写真を通して建築や歴史など関連分野にも造詣を深めていただけるよう取り組んでいます。

2026 THEME EDGE

捉えどころがなく、常に変化を続ける「EDGE (エッジ)」は、物理的、社会的、心理的な様々な形をとって立ち現れる。断崖に身を置いたときの緊張感、衝突が起きる瀬戸際、周縁で生きることへの不安定さ、新しい先端に行く決意——写真もまた、「際(きわ)」をその内側に抱えている。写真というメディアムは誕生以来常に周縁に位置し、記録と芸術、真実と虚構のあわいを揺れ動いてきた。いま、新たなテクノロジーの到来と画像が氾濫する時代のはざまで、写真は臨界点に立たされている——先が見えない不安と、何かを発見する高揚感。その両者が共存する場所に。

KYOTOGRAPHIE2026は、この「あわい」を、緊張と変化が同時に生まれる場所として描き出す。「エッジ」は、不確実性に満ちた場所であり、同時に可能性の生まれる場所でもある。そしてひとつの終わりが、次の始まりへと導かれる。

TICKETS

デジタルチケット E-Ticket | 紙チケット Ticket

PASSPORT TICKET

前売り券発売中 (4/17まで)、会期中有効、各有料会場に1回入場可能。図録付きチケットなども発売!

前売 (一般) General ¥5,500 | 開幕後(4/18以降): ¥6,000

学生 Students ¥3,000 | 要学生証提示

EXPRESS PASSPORT

列に並ばずすぐ入場できて、何度でも鑑賞できるドネーション・チケット。会期中有効。 ¥15,000

オンライン・一部書店などの店舗にて前売発売中 (4/17まで)

お得なパスポートの販売詳細は公式WEBサイトでご確認ください。

その他、会期中には京都市民割や、平日限定パスポート、単館チケットなども発売予定。



DAIDO MORIYAMA 森山大道 A RETROSPECTIVE

Presented by Sigma
Exhibition organized by KYOTOGRAPHIE and Instituto Moreira Saales
In collaboration with Daido Moriyama Photo Foundation

京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階
Kyoto City KYOCERA Museum of Art, Main Building South Wing 2F



© Daido Moriyama Photo Foundation

THANDIWE MURIU タンディウェ・ムリウ

CAMO Presented by LONGCHAMP

誉田屋源兵衛 竹院の間
Kondaya Genbei Chikuin-no-Ma

KYOTOGRAPHIE African Residency Program

出町櫛形商店街
Demachi Masugata Shopping Arcade
DELTA KYOTOGRAPHIE Permanent Space



Left: An Abundance of Plenty, 2024 © Thandwe Muriu, Courtesy 193 Gallery
Right: © Thandwe Muriu For KYOTOGRAPHIE African Residency Program 2026 Courtesy 193 Gallery

SOUTH AFRICA IN FOCUS

南アフリカの歴史と写真表現の多様性を体現する、3世代によるアーティストの作品と、フォトブック・コレクションを展示

PHOTO BOOK! PHOTO-BOOK! PHOTOBOOK!

by Sean O'Toole ショーン・オトゥール
In collaboration with A4 Arts Foundation

八竹庵 (旧川崎家住宅)
Hachiku-an (Former Kawasaki Residence)



© A4 Arts Foundation



© Juliette Agnel / courtesy Galerie Catherine de la Fontaine & Photo Days

LINDER STERLING リンダー・スターリング

GODDESS OF THE MIND
Presented by CHANEL Nexus Hall

京都文化博物館 別館
The Museum of Kyoto Annex



© Sari Shibata

SARI SHIBATA 柴田早理

Presented by Ruinart
Ruinart Japan Award 2025 Winner

ASPHODEL



© Federico Estol

FEDERICO ESTOL フェデリコ・エストル

KG + SELECT Award 2025 Winner

誉田屋源兵衛 黒蔵
Kondaya Genbei Kurogura

JULIETTE AGNEL ジュリエット・アニェル

Presented by Van Cleef & Arpels

有斐斎 弘道館
Yuuhisai Koudoukan



ATSUSHI FUKUSHIMA 福島あつし

Supported by Fujifilm

ygion



© Atsushi Fukushima

FATMA HASSONA ファトマ・ハッソーナ

八竹庵 (旧川崎家住宅)
Hachiku-an (Former Kawasaki Residence)



© Fatma Hassona

KYOTO GRAPHIE

international photography festival



© Anton Corbijn

ANTON CORBIJN アントン・コービン

Supported by agnès b.
With subsidy of the Embassy of the Kingdom of the Netherlands

嶋臺(しまだい)ギャラリー
SHIMADAI GALLERY



© Yves Marchand & Romain Meffre

YVES MARCHAND & ROMAIN MEFFRE イヴ・マルシャン & ロマ・メェッフェル

重信会館
Jushin Kaikan



© Ernest Cole / Magnum Photos

ERNEST COLE アーネスト・コール

HOUSE OF BONDAGE
Supported by Cheerio
In collaboration with Magnum Photos

京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階
Kyoto City KYOCERA Museum of Art, Main Building South Wing 2F

PIETER HUGO ピーター・ヒューゴ

WHAT THE LIGHT FALLS ON

京都市京セラ美術館 本館 南回廊 2階
Kyoto City KYOCERA Museum of Art, Main Building South Wing 2F



© Pieter Hugo



© Lebohang Kganye

LEBOHANG KGANYE レボハン・ハンギエ

Presented by DIOR

東本願寺 大玄関
Higashihonganji O-genkan

KG+

これからの活躍が期待される写真家やキュレーターの発掘と支援を目的とした公募型フォトフェスティバル。京都から新たな才能を世界に送り出すことを目指し、展覧会を開催します。



KYOTOPHONIE BORDERLESS MUSIC FESTIVAL

2023年から始まったミュージックフェスティバル(春と秋に開催)。今年もKYOTOGRAPHIE 2026の開幕に合わせて、ユニークなアーティストの公演を開催します。詳細は、公式WEBサイトでご確認ください。



www.kyotographie.jp | @kyotographie | @kyotographie_ | @kyotographie

全てのプログラム内容、会場、協賛企業の情報は2月20日現在のものです。予告なく変更になる可能性や、後日追加情報の発表がございます。公式WEBサイト、各種SNSをご確認ください。All the information is up-to-date as of February 20th. Please be aware that information contained herein is subject to change without notice. Please check the official website and social media channels for the latest updates.

プレミアムスポンサー
Premium Sponsor

協賛
Sponsors

特別コラボレーション
Special Collaboration

CHANEL NEXUS HALL

Van Cleef & Arpels

SIGMA

Ruinart

FUJIFILM

LONGCHAMP PARIS

THE RITZ-CARLTON KYOTO

DIOR

agnès b.

三栄

東條啓爾 写真研究所

HEARST fujingaho

MCDcaux

nissha

AceHotel Kyoto

HCL

7-Eleven

Station

主催: 一般社団法人KYOTOGRAPHIE 共催: 京都市/京都市教育委員会 後援: 京都府/在日オランダ王国大使館/在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ